

滋賀県の気候変動と農畜水産業における適応策の取組について

1 滋賀県のこれまでの気候変化と将来予測情報

(1) 趣旨

地球温暖化に伴う気温の上昇や降水量の変化等によって、農林水産業、琵琶湖をはじめとする水環境・水資源、自然生態系、自然災害といった広範な分野に影響が生じることが指摘されている。

今後の適応策の推進につなげるため、これまでの本県の気候の変化と将来の予測をとりまとめた。

(2) 滋賀県のこれまでの気象観測結果

彦根地方気象台の観測によると、滋賀県の気温および降水量等は次のとおり変化している。

- 年平均気温等の変化(彦根)
100年あたり1.35℃の割合で上昇傾向
- 年間降水量の変化(彦根)
統計的に有意な増加は確認されていない

(3) 滋賀県の気候の将来予測

「地球温暖化予測情報第9巻」(気象庁、平成29年)によると、現状を上回る地球温暖化対策を講じない場合、現在気候(1980～1999年)と比較し、21世紀末(2076～2095年)の県内の気候は、次のとおり変化すると予測されている。

- 年平均気温の変化
21世紀末には約4.3℃の上昇
(現在の鹿児島県の年平均気温の平年値(18.6℃)を上回る)
- 降水量等の変化
大雨発生日数(日降水量100mm以上)は、秋を中心に増加
(現在:3～4年に1回、21世紀末:2年に1回)

※ 詳細は資料2-2のとおり

2 気候変動にともなう農畜水産業における適応策の取組について

資料2-3のとおり。